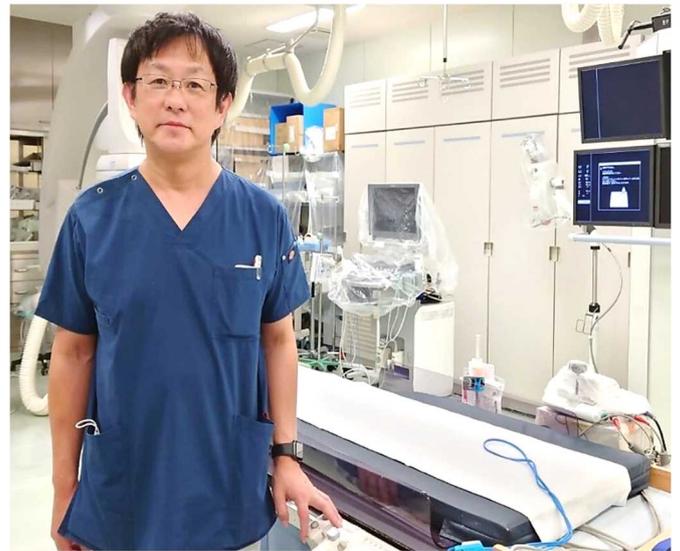




《地域連携室長の挨拶》

地域連携室長 兼 副院長 村井 久純

2020年より当院に赴任し、副室長として地域連携室の流れを学んできましたが、本年度より、金沢市立病院の地域連携室長として働かせていただくこととなりました。地域連携室として、医師2名、看護師10名、社会福祉士4名、事務3名と共に患者様の支援を行っていく予定です。昨今、コロナ禍も、ようやく落ち着きを戻す中で、今後、金沢山側地区医療圏での当院の役割をより発展させていく必要があります。まず、今後の目標として、かかりつけ医の先生方と当院との垣根をなくし、ボーダーレスな医療圏を実践していきたいと思っています。当面、以下の2つのことを考えています。



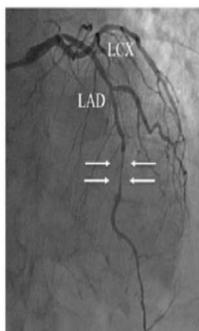
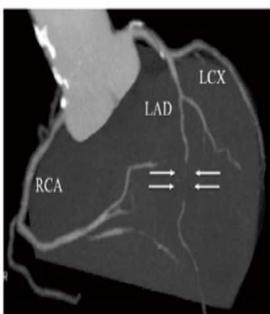
迅速画像予約システム

「インターネットで画像予約を、かかりつけ医より簡便に行っていたく」



320-slice CCT

Coronary angiography



まず、第一の取り組みとして、副室長の放射線科の小坂先生とともに、かかりつけ医の先生からの画像オーダーリングシステムの導入による紹介の簡易化を行っていく予定です。将来的には、石川県情報ネットワークなどを利用して、かかりつけ医の先生や介護施設などとPCで情報共有できるシステムを構築できれば良いと考えています。

次に、かかりつけ医の先生や地域の医療従事者との対面で行える機会を充実させていきたいと考えています。コロナ禍が教えてくれたことの1つに、対面での話し合いの喜びがあると私は思っています。現在、2-3か月に1度、症例検討会であるOCCを行っていますが、参加数が必ずしも多くないのが現状です。折角の機会であり、少しでも興味がわくような症例やトピックスを提示できるように努力していこうと考えています。

これからも、地域の先生方と連携し1人でも多くの患者さんの生命予後を改善できるよう尽力を尽くしたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

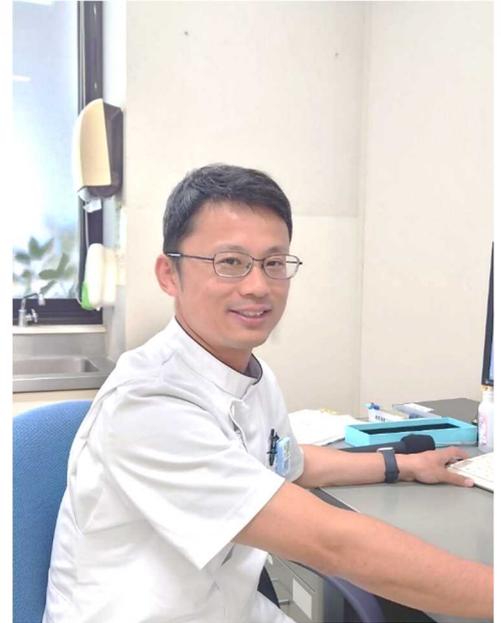
《地域に必要とされる整形外科を目指して》

2024年4月 着任 整形外科医長 大島 健史

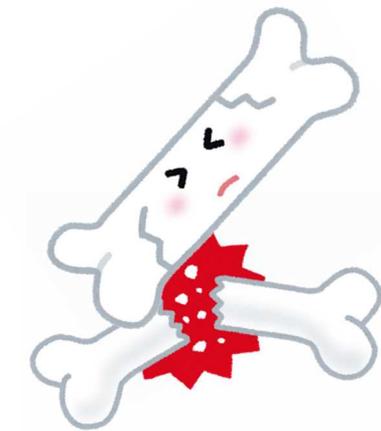
高齢化に伴い、骨粗鬆症を背景とした骨折、いわゆる脆弱性骨折を受傷される患者さんが増えています。中でも、大腿骨近位部骨折（転子部骨折や頸部骨折）は一度おこすと生活の質が大きく低下してしまうことが知られており、40%の方が一人で歩けなくなり、3人に1人の方が1年以内に施設へ入所、もしくは介護を受けることになると言われています。2020年度の発生件数は20万件を超えており、2040年には年間30万件に達するとされており、医療経済的にも非常に大きな問題となっています。

高齢者の脆弱性骨折のポイントは、①早期介入（手術や入院）と②骨粗鬆症治療の継続と考えています。

早期の介入については、大腿骨近位部骨折を例に取りますと、受傷より48時間以内の手術により有意に合併症や1年後の死亡率を低下させ、入院期間を短縮できることが報告されており、本邦でも早期手術が推



奨されています。2022年の診療報酬改定にて、48時間以内の大腿骨近位部骨折の手術に「緊急整復固定加算」、「緊急挿入加算」がつくようになり、全国で早期手術への取り組みが進んでいます。また、脊椎圧迫骨折においても骨折して早期に入院させ保存加療を行ったり、経皮的椎体形成術（30分程度の低侵襲手術）を行ったりすることで、椎体のさらなる圧壊が予防できることが知られています。高齢者はすぐに体力が落ちてしまうため、早期に介入し、QOL、ADLを低下させないように努めることが大切です。



脆弱性骨折をひとたび起こした患者さんは、また別の箇所を骨折する可能性が非常に高くなることが知られており、骨粗鬆症治療の継続が不可欠です。しかし、骨折が治癒してしまうと自己判断で辞め

てしまうケースが多く見られます。地域全体で役割分担をしながら、切れ目なく骨粗鬆症治療を継続してもらうことが必要と感じています。これからも当院では高齢者の骨折治療に力を入れてゆき、地域に必要とされる整形外科を目指してまいります。引き続き、患者様のご紹介をよろしくお願いたします。

《新任医師紹介》

～4名の医師が着任しました～



金沢大学付属病院より異動してきました。地域の小児医療に貢献できればと思います。よろしくお願いいたします。

小児科長

じんかわ あすみ

神川 愛純

[得意分野]

小児内分泌・代謝



医師5年目になります、消化器内科の春藤英明です。富山県立中央病院を経て、地元金沢に戻って仕事ができることを大変嬉しく感じております。内視鏡検査のハードルが低くなるよう、負担の少ない検査を模索していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

消化器内科医師

しゅんとう ひであき

春藤 英明

[得意分野]

消化器内視鏡検査



医師4年目の立村です。昨年度は厚生連高岡病院で勤務していました。出身は富山県富山市の大沢野というところで、大学は金沢大学です。中学から大学までバレーボール部に所属していました。まだまだ至らない部分も多いかと存じますが、患者さんに寄り添った医療を心がけて精進いたします。今後よろしくお願いいたします。

呼吸器内科医師

たちむら なおや

立村 直也

[得意分野]

呼吸器内科一般



医師5年目の平戸佑樹です。前年度は金沢大学付属病院で勤務していました。地域医療の発展のため精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

内分泌・糖尿病内科医師

ひらと ゆうき

平戸 佑樹

[得意分野]

糖尿病

《「まちなかサロン」の再開です！！》

平成30年から平和町2丁目のショッピングセンター「アルコ」の空きスペースを利用して行っていた『まちなかサロン』は、コロナ禍以降中止していましたが、令和6年6月から定期的に再開いたします。

このサロンは、当院と金沢学院大学及び金沢美術工芸大学が連携し、病気の予防や健康寿命の観点から身近なテーマを題材に運動・講座・創作を行うものです。地域の住民の集いの場となり、つながりを深められるようなサロンを目指します。ご興味のある方は、ぜひ、お立ち寄りください。



《臨床研修医紹介》



基幹型研修医

かわしま えま

川島 瑛麻

臨床研修医1年の川島瑛麻です。出身は兵庫県の芦屋市で九州大学を卒業しました。まだまだ医師としても社会人としてもひよっこですが、金沢市立病院のチーム医療の一員となるよう日々精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



協力型研修医

なかむら だいき

中村 大喜

金沢大学からの連携研修で1年間市立病院でお世話になります。臨床研修医の中村です。地域中核病院の一角である当院で、患者さんに寄り添えるような診療を磨いていきたいと考えておりますので、院内でみかけた時にはぜひ声をかけていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。



協力型研修医

くぼ りかこ

久保 理香子

はじめまして、初期研修医1年目の久保です。金沢市立病院の医師の1人として患者さんに寄り添った医療を提供できるよう、日々精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



協力型研修医

しょうの しんや

庄野 真矢

金沢市立病院初期研修医の庄野真矢です。出身は大阪府で、卒業大学は金沢医科大学です。未熟者ですが、金沢市の医療に少しでも貢献できるよう、日々精進していきます。よろしくお願いいたします。

《地域連携室職員紹介》

地域連携室は、村井循環器内科長を室長、小坂放射線科長および高田副看護部長を副室長とし、医師、看護師、社会福祉士、事務職員の多職種で業務にあたっています。今年度、入退院支援室より門谷が地域連携室社会福祉士に配属となり、中町看護師と大口看護師が加わりました。新しいメンバーと共に、より一層、関係機関との連携強化に努めてまいります。紹介患者さんの受診や開放病床の利用、ご要望など、何でもお気軽に地域連携室にお問い合わせください。なお、入退院支援につきましては、入退院支援室が担当いたします。入退院支援室社会福祉士には令和4年度まで同室に勤務していた濱崎ちひろが本庁より配属となり、鶴見看護副師長が加わりました。よろしくお願いいたします。地域連携室スタッフ



入退院支援室スタッフ



金沢市立病院 地域連携室

〒921-8105 金沢市平和町3丁目7番3号

TEL: 076-245-2626 FAX: 076-245-2693 <https://kanazawa-municipal-hosp.com/>